

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載
【部門区分】第1部門第2区分
【発行日】平成17年7月7日(2005.7.7)

【公開番号】特開2002-159495(P2002-159495A)
【公開日】平成14年6月4日(2002.6.4)
【出願番号】特願2001-337406(P2001-337406)
【国際特許分類第7版】
A 6 1 B 8/12
【F I】
A 6 1 B 8/12

【手続補正書】
【提出日】平成16年11月2日(2004.11.2)
【手続補正1】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】特許請求の範囲
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項1】

内視鏡と、
前記内視鏡の遠位端に接続したプローブ・ヘッドと、
前記内視鏡に固定させた可撓性チューブと、
前記可撓性チューブ内に摺動可能に配置した半剛性ロッドと、
を備える剛性調節可能な経食道プローブ。

【請求項2】
前記可撓性チューブが内視鏡の内部の中心に来ている、請求項1に記載の剛性調節可能な経食道プローブ。

【請求項3】
前記内視鏡が連結区間を含む、請求項1又は2に記載の剛性調節可能な経食道プローブ
。

【請求項4】
前記プローブ・ヘッドが超音波トランスジューサである、請求項1乃至3のいずれかに
記載の剛性調節可能な経食道プローブ。

【請求項5】
連結区間を有する内視鏡と、
前記内視鏡の遠位端に接続したプローブ・ヘッドと、
前記内視鏡の内部に固定させた可撓性チューブと、
前記可撓性チューブ内に摺動可能に配置した半剛性ロッドと、
を備える剛性調節可能な経食道プローブ。

【請求項6】
前記可撓性チューブが内視鏡の内部の中心に来ている、請求項5に記載の剛性調節可能な経食道プローブ。

【請求項7】
前記プローブ・ヘッドが超音波トランスジューサである、請求項5又は6に記載の剛性
調節可能な経食道プローブ。

【請求項8】
剛性調節可能な経食道プローブを使用する方法であって、
その遠位端にプローブ・ヘッドを接続させかつその内部に可撓性チューブを固定させてい

る内視鏡を患者内に挿入するステップと、
前記内視鏡をより剛直にするために、前記可撓性チューブ内で半剛性ロッドを前進させる
ステップと、
を含む方法。

【請求項 9】

さらに、前記内視鏡をより柔軟にするために、前記可撓性チューブ内で前記半剛性ロッド
を後退させるステップを含む請求項 8 に記載の方法。

【請求項 10】

さらに、超音波トランスジューサを用いて内部臓器を画像化するために前記プローブ・
ヘッドを利用するステップを含む請求項 8 又は 9 に記載の方法。